

比叡山マルチ講習会～TAカンテ～

【報告者】I藤、A屋

【日時】2017年11月25日

【天候】晴れ

【参加者】N谷(L)、Y子、A屋、I藤

《コースタイム》

比叡山駐車場 11:15-取り付き 12:00-2ピッチ目 13:30-3ピッチ目 14:00-4ピッチ目 15:00-下山 16:05

《報告》 N谷、I藤パーティ：報告：I藤

宮崎県比叡山は、入会してからこれまで一度しかチャンスが来ないまま、しかも天候などで都合がつかず、私には、縁がないのかなぁーと思っていました。しかし、アルパイン塾でお世話になっているT氏から、比叡山のマルチクライミングを強く勧められ、今回参加を決意しました。

二度目の比叡山といっても、私はほぼ初心者と同様、さらに講習会、初ルートでもあり、リーダーのY中さんは易しめルートを配慮して下さいました。(どうもありがとうございます!)

TAカンテの取り付きは、トイレの隣に看板があり、裏に進んで行きます。しかし、すでに混雑していて待ち時間もあり、開始時間は遅れましたが、N谷-I藤、Y子-A屋 という組み合わせで実施しました。

1ピッチ目はIV級(+)のグレードでリードはN谷さんです。2ピン目付近でうめき声をあげておられ、苦慮されているのだと察しがつきます。(その人の持ち味が現われる部分ですね、観察すると様々でユニークです。)いよいよ自分の番です。呻き声を発していた凸の岩角が分かりました。記憶にありませんが、自分も吠えながら、気合いで登り上がったように思います。

2ピッチ目はというと、「3KN」「失われた草付き」の2本のルートの確保支点が交差しています。うっかりミスをして取り付いてしまうこともありますので、リードは勇さんをお願いしました。交差している支点の場所では、私は写真撮影をして楽しむことが出来ました。

3ピッチ目は、グレードはIV級、ルートを直上します。フォロアーは、支点工作の位置が遠くから視認出来るという有難い

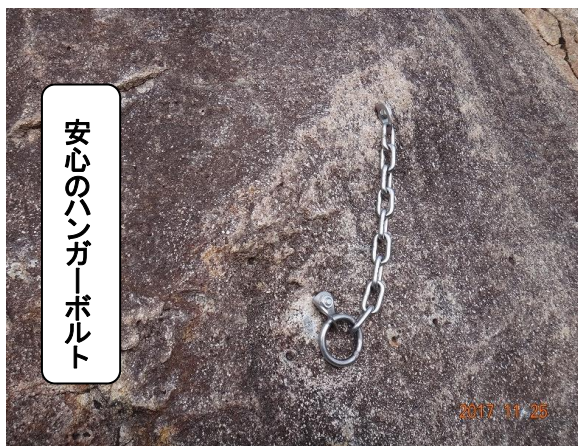


条件が揃っていました。さらにN谷さんより、カラビナゲートの向きや流動分散について簡潔にレクチャーをしてもらいました。自分に出来そうなリードのチャンスが到来したと、気分は徐々に高揚し、初リードをさせて頂きました。こわごわでしたが、ホールドにチョークが付いていたこともあり、チョークを頼りに次のホールドを探しては、スメアリングを意識しました。自分は落ちないと注意を払いながら、動作を繰り返しました。岩壁の左側には苔が多く付いていたので、右側へと上がって行くと、確保支点を見つけました。比叡山のハンガーボルトは強固だと事前に情報を得ていたもので、実際、一目で安心しました。しかし、これが油断なのか、セルフビレイで確保はしていたものの、さらにメインロープで行う事を忘れてしまっていました。次のピッチに登り出す前に自分で気付いたので、よかったです。

話は少し逸れますが、振り返るとこの半年間は、自分は殆どフォローで登ってきました。比叡山と違って、立ち木や岩角の支点工作を見ては、支持力の不確定要素が多く、毎回おっかなびっくりでした。

4ピッチ目もグレードはIV級という事で、そのままリードをさせて頂きました。

中間支点にハーケンがあり、穴が岩壁に密接していて、クイックドロワーが掛からず、少々困りました。テープスリングで穴にタイオフしました。細いスリングだと、なお良かったかなと思います。(ハーケンがアゴまで入っていない場合には、ブレードが壁に密着した位置にスリングをタイオフすること！)



確保点に着き、セルフビレイとメインロープの2本で忘れず確保をし、フォローの確保も無事に出来ました。

最終ピッチは、グレードにより、N谷さんにリードして頂きました。

今後において、より安全なアンカーポイントを構築するために、支点の角度と強度を考えた場合、アンカーポイントが60度以内になるようにセッティングすることを基本的に念頭に置く必要があります。

今回、私は初ルートで参加し、ロープの取り扱いなど不十分な点もあったと思います。そんな中、経験者の皆さんは、温かく見守りながらサポートをして下さいました。おかげさまで楽しむことが出来ました。また機会があれば、他の初級ルートにも挑戦してみたいです。どうもありがとうございました！

Y子、A屋パーティ：報告：A屋

およそ1年ぶりマルチピッチクライミング。問題ないとは考えていたが不安もあったので入門ルートでしかもセカンドで登らせて頂いた。講習会でもあったので、取り付きまでの急坂を上り下りしながら長めのアップで十二分に体を温め、緩傾斜での懸垂下降の練習も行った。(彷徨っていたともいう。)

1ピッチ目、スラブに張り付くこぶ岩の右側の隙間を抜けたあとホールドやスタンスが細くなるあたりが核心だろうか。最初のピッチなのでどうしても力んでしまう。リードするY子さんは、怖いといいつつも非常に安定したムーブで登っていく。自分は核心部あたりで行き詰った。セカンドであることを心の支えに強引に攀じ登り体力を消耗した。余裕が無くて足の置き方もホールドの取り方もいい加減だったと今にして思う。

2ピッチ目は一番易しく、トラバース気味に移動する。地元から来られたという後続パーティが3KNに行くと言っていたが、3ピッチ目途中から進めなくなっていたようだ。おそらく別ルート「失われた草付き」に誤って入っていったのではないだろうか。2ピッチ目の分岐は間違いやすいので要注意である。



Y子-A屋チーム

3ピッチ目、4ピッチ目のグレードはIV級となり、すっきりしたカンテで快適に登れたが、もう少しボルトがあってもいいのではないかとセカンドながら感じた。3ピッチ目終了地点の手前にある岩は、どう見てもちょっと引っかかっている程度にしか見えない。いつまでそこにあるのだろう。

最終ピッチにきて、落ち着いて岩に向き合えるようになり、スタンスの乗り方、ホールドのつかみ方の精度を意識することでIV+ではあったが余裕をもって登ること



ができた。もっと登りたいとなってきたときに終了してしまった。

比較的短いルートではあったが、久しぶりに岩登りをとても楽しむことができた。また機会あれがぜひ登りたい。ずっとリードしていただいた Y 子さんには感謝である。自分はより高いグレードを求める前に、このグレードの岩をもっと確実に安定して登れるように練習していきたい。終了後の公民館での宴会は、大勢の人が集まり盛り上がっていた。四国からこられた山の子さんたちと山談義でも盛り上がった。山好きが集まって情報や刺激を交換できる場は貴重だと感じた